

# 報告

## 第22回全国有床診療所 連絡協議会総会に出席して

常任理事 深澤 雅則

第22回全国有床診療所連絡協議会総会が、平成21年8月1日（土）、2日（日）の2日間にわたり熊本市のホテル日航熊本で開催された。

初日は、熊本県有床診療所協議会 蔵元 昭一 会長の開会挨拶で始まり、全国有床診療所連絡協議会の内藤 哲夫 会長は挨拶の中で、今回で会長を辞任し、後任に神奈川県医師会理事の葉梨 之紀 氏（整形外科医）が就任することに決まったことを告げた。

特別講演Ⅰ「社会保障の課題」を西島 英利 参議院議員が講演。特別講演Ⅱ「21世紀の国民医療と地域医療～医療崩壊から守るみち～」は、日本医師会 唐澤 祥人 会長が講演、最後に「有床診療所と介護保険」を日本医師会 三上 裕司 常任理事が講演された。

夜の懇親会では「山鹿灯籠踊り」が披露され、その後壇上で「ちょんかけごま」有志の会の駒廻しの実演もあり、会場の参加者も壇上に上がり指導を受け、楽しそうに駒を廻していた。その間、美味しい熊本の料理と焼酎をいただいた。

2日目は、特別講演Ⅲ「医療提供体制の現状と課題」として、厚生労働省保険局 佐藤 敏信 医療課長が講演。講演の中で、有床診療所の経営が大変厳しいとの認識があり、その内容からやっとな厚労省も有床診療所のことを本気で考え始めたなと感じられた。

シンポジウムでは、「地域における有床診療所の役割」と題して5人のシンポジストより話があった。その中で、熊本日日新聞社編集委員室室長 春木 進 氏が、有床診療所が成り立たない状態にしているのは、政府にも結果責任があると厳しく指摘していたのが印象に残った。

有床診療所は毎年1,000箇所位の閉鎖が続いており、平成20年10月では11,832箇所と減少しているが、必要な診療所はぜひ今後も永く存続させたいと願っている。全国有床診療所連絡協議会の会員数は、平成21年7月10日現在3,911名であり、もっと会員数を増やして日本医師会へも政府にも、もっと大きな声となって働きかけてほしいと思う。

今回の要望書の要約を最後に掲載する。

- 1) 入院基本料の全体的引き上げ
- 2) 一般病床入院基本料の逓減制の見直し
- 3) 看護配置基準の見直し
- 4) 入院時医学管理加算の新設
- 5) 医療計画における病床規制の撤廃
- 6) 病床区分の撤廃

この中で経営に直接響く入院基本料は、入院30日を超えると2,800円位となり、ビジネスホテルよりはるかに安く、どう考えてもこのままでは有床診療所を維持するのが困難と思われる。

来年の第23回全国有床診療所連絡協議会総会は、岡山県医師会 井戸 俊夫 会長のもとで開催される予定である。



会場風景



山鹿灯籠踊り